

## 「学ぶことを学ぶ能力」を身につけよう

- 新学期を迎えるにあたって -

開倫塾

塾長 林 明夫

お読みになりやすいように、QandA の形で書かせて頂きます。予め御了承下さい。

Q：受験生は受験が始まりました。受験のない学年も学年末試験があります。受験に合格し、学年末試験でよい成績を取る秘訣はあるのですか。学力を向上させるポイントは何ですか。年の始めに説明して下さい。

A：(林明夫：以下省略)新年明けましておめでとうございます。今年もどうかよろしく願い申し上げます。

合格の秘訣、学年末試験でよい点数を取る秘訣は何か。一言で言えば、「学ぶことを学ぶ能力」を、今からでも遅くありませんから、一日でも早く、一時間でも早く身につけることです。

Q：「学ぶことを学ぶ」とは、どういうことですか。

A：英語で言うと Learning to learn(ラーニング・トゥ・ラーン)。learn とは、一度「理解」したことを「身につける」「定着させる」ことを言います。「身につける」、「定着させる」方法を身につけることが、「合格」や「学年末試験でよい点数を取る」秘訣と言えます。もって言えば、ありとあらゆる分野で「学力を身につける」秘訣と言えます。

Q：開倫塾で教わった「学習の3段階理論」の第2番目の「定着」に似ていますね。

A：その通りです。「合格の秘訣」、「学年末試験でよい点数を取る秘訣」は、共通して、一度「うんなるほど」と「理解」したことを正確に身につける、つまり定着させる方法をマスターすること、自分のものにする、身につけることです。

(1)合格点が取れない最大の理由、学年末試験をはじめとする定期テストでよい点数が取れない最大の理由は、一度「うんなるほど」と「理解」した内容を正確に身につけていないからです。「定着」させていないからです。

(2)偏差値の高い塾生、具体的に言えば偏差値 70 以上の塾生の皆さんは、一度「うんなるほど」と「理解」した内容を何も見ずに正確にスラスラ言えます。何も見ないで楷書で正確に書くことができます。一度解いた基本的な問題は、問題を見た瞬間に条件反射で正解を出すことができます。

逆に、偏差値が 50 未満の塾生の皆さんの大半は、一度「うんなるほど」と「理解」はしていても、その内容を何も見ないで正確にスラスラ言うことができない。楷書で正確に書くことができない。一度解いた基本的な問題も、問題を見た瞬間に条件反射で正解を出すことができない。そのような人が多いと言えます。

- (3)では、偏差値 70 以上と偏差値 50 以下の差はどこから生じるかと言えば、「頭が良い悪い」ということは全く関係がありません。一度「うんなるほど」と「理解」した内容を「正確に身につける」つまり「定着」させるための「作業」を、やっているかやっていないかだけです。「定着」は、「努力」あるのみです。「定着」のための「努力」は必ず「報(むく)われる」と断言できます。
- (4)この「定着」重視の勉強方法は、入学試験のための受験勉強でも絶大な効果を発揮するので、学年末試験のような「定期テスト」で「定着」に真正面から取り組みれば全科目 100 点も可能です。

Q：受験生は、どのように「定着」と取り組みればよいのですか。

A：開倫塾でその日に勉強した内容で、十分身につけていないと思われるところがあれば、その日のうちにしっかりと身につけること。

(1)例えば、英語は次のようにします。

開倫塾で、県立高校の過去問を 2 年分勉強したときは、寝る前や翌日学校から帰宅後にもう一度 2 年分の問題をやり直す。やり直ししながら、本文・問題文を含めた英文はすべて大きな声を出して「音読」する。スラスラ読めるまでにする。大事な文は、何回も何十回も読み直す。口をついて出るようになるまでにする。何も見ずに書けそうな単語や文は、何回も何十回も不要な用紙に書き取り練習をする。紙が真っ黒になるまで書き取り練習をする。英語であっても、問題はすべてやり直す。問題を見た瞬間に正確に解答が書けるようになるまで、何回も何十回もやり直す。

高校入試の受験生だけでなく、大学入試の受験生にとっても、過去問の「音読練習」「書き取り練習」の徹底的な積み重ねこそが、英語の偏差値大幅アップの秘訣と言えます。

(2)数学も、開倫塾でその日に勉強した内容を帰宅後に勉強し直すこと以外に、偏差値を上げる方法はないと考えます。

問題を見た瞬間に条件反射で正確な解答が出せることを目標にすると、今からでも偏差値は飛躍的に向上します。ですから、自分にとっては簡単な問題でも、頭の体操と考えて、パッパッと素早く正確な解答を出す練習をすることです。また、問題を繰り返し解いているうちに、「ああこれはこういうことだった」と「理解」が深まるのが数学です。

間違えた問題は、その日の授業を思い出して、もう一度まずは何も見ずに解いてみる。どうしてもわからなければ、授業のノートを見たり、解答集を参考にする。そして、気を取り直して、もう一度何も見ないで自分の力だけで解いてみる。できれば 4 ~ 5 回、間違えた同じ問題を解き、その問題を自分のものにする。つまり、問題を見た瞬間に条件反射で正確に解答できるまでにするのです。

このような地道な努力の積み重ねが、高校入試でも、大学入試でも、偏差値の大幅な上昇という結果をもたらします。

「練習、練習、また練習」が、数学の学力向上の基本です。努力は必ず報われるのが受験勉強です。

(3)国語、社会、理科も、一度「うんなるほど」と「理解」した内容を身につける、「定着」させるための勉強方法は、全く同じです。

高校入試でも、大学入試でも、開倫塾でその日に勉強した問題を、歯をくいしばってもう一度やり直す。やり直すときには、本文・問題文ともに大きな声で「音読」すること。国語も社会も理科も、迷うことなく「音読」をすること。音読しながら、ちゃんと書けないと思われる語

句に出会ったら、何回も何十回も「書き取り練習」をすること。必要な図表は、何も見ないで正確にかけるまでにすること。薄い紙の上から教科書を書き写すことも役に立ちますよ。国語は、漢字や古語の「書き取り練習」を、そして、語句の「意味」も「書き取り練習」をして下さい。

社会は、地名や人名、重要語句の「書き取り練習」を、語句の意味(「～は...です」という定義)も徹底的な「書き取り練習」をすることが、成績向上の秘訣です。国語と同様、社会は正確に書けなければ点数になりません。

理科は、観察・分析内容を自分の力で書けるか。これも広い意味での「書き取り練習」です。覚えるべき内容は、まずは「音読練習」、スラスラ口について言えるようになったら「書き取り練習」。数学と同じように、理科の計算問題は、一度「うんなるほど」と「理解」できた問題については、どんなにやさしい問題でも帰宅後にもう一度やり直し、問題を見た瞬間に条件反射で正解が出せるまでにすること。一度間違えた問題は、帰宅後にもう一度自分の力だけでやり直してみる。もしどうしても解けなければ、授業中のノートや解答集を参考にして、なぜそのような解答になるのか考え、しばらくしてもう一度自分の力だけで解いてみる。そして、一人で解けるようになった問題を自分の得点源にするために、その問題をさらに4～5回自分の力で解き直し、問題を見た瞬間に条件反射で正解が出せるまで自分を鍛え上げる。

高校入試でも、大学入試でも、この理科の勉強方法によって、今からでも偏差値は大幅にアップします。

Q：受験学年ではない塾生は、学年末試験までの1か月余りをどのようにしたらよいのでしょうか。

A：受験生と全く同じです。

- (1) 各科目とも、一度「うんなるほど」と「理解」した内容を、「練習、練習、また練習」で、とりあえず、何も見ないで正確にスラスラ口について言えるまでにすること。何も見ないで正確に楷書で書けるまでにすること。一度解いたことのある問題は、問題を見た瞬間に条件反射で正解できるまでにすること。
- (2) 「今学年の内容は、全科目100点満点を目指す学年末試験の勉強を通して、今学年中にすべて正確に定着させる」こと。
- (3) 「今学年の勉強は、次の学年に持ち越さない」こと。
- (4) 「とりわけ、受験前学年である小学5年、中学2年、高校2年生は、最終学年の内容を夏休み前までに学習し終えるためにも、今の学年の基本的な内容については、受験学年になってから、つまり4月すぎには勉強し直さなくても済むように、完全に身につけておく、定着させておく」こと。
- (5) 受験直前学年である小5(私立中学校受験の場合)、中2、高2の塾生の皆さんは、「受験まであと1年」と、受験前年度であることを常に「自覚」して下さい。この「自覚」つまり「心構え」ができていないか、1年後を大きく左右します。「音読練習」「書き取り練習」「問題練習」を1年前から徹底的に行えば、開倫塾の塾生であれば誰でも偏差値70は可能です。これは、私立中学校入試、高校入試、大学入試などで全く変わりません。「練習、練習、また練習」で、偏差値は70近くまではいくらでも上がります。
- (6) ただし、首都圏の御三家などと呼ばれる有名私立中学校の入試は難度が極めて高いため、小学校4年生くらいから本格的な受験勉強をスタートしないと、時間的に不足する場合があります。開倫塾の校舎がある栃木県、群馬県、茨城県内の私立中学校入試は、首都圏の有名私立中

学校のそれとは異なり、「練習、練習、また練習」の勉強方法で1年間真剣に取り組めば必ず合格できます。努力は必ず報われます。

Q：よくわかりました。受験生も、受験ではない学年の塾生も、3学期は「うなるほど」と一度「理解」した内容を正確に身につける、つまり「定着」するために、「音読練習」「書き取り練習」「問題練習」を徹底的に行えばよいのですね。

そこで、質問があります。開倫塾塾長の林さんは、毎月の開倫塾ニュースや塾長通信、栃木放送のラジオ番組「開倫塾の時間」などで、「理解」「定着」「応用」の「学習の3段階理論」を常に説明していますね。この文章でも、「定着」について説明しています。なぜ同じようなことを何回も言い続けているのですか。

A：よいことを質問して下さいました。有難く感謝します。

(1)希望校に入学するために偏差値を上げる受験勉強や、中間試験・期末試験・学年末試験などの定期テストで100点を取り成績を上げる勉強、実用英語検定などの資格試験合格のための勉強など、世の中にはいろいろな勉強があります。学力を身につけてよい成績を得られる人と、折角勉強しても一向に成績が上がらない人が出るのはなぜか。

(2)成績が上がらない原因は極めて明白です。内容を「うなるほど」と十分に「理解」していない場合は、どんなテストでもよい成績は取れません。また、どんな試験にも合格しません。もっと言えば、「うなるほど」と「理解」はしてもそれが完全に身につけていない場合も、よい成績は取れません。また、試験にも合格できません。

(3)自分で勉強したり、学校や開倫塾で勉強して「うなるほど」と十分に「理解」した内容を十分に身につけない限り、つまり、何も見ずにスラスラ正確に言える、何も見ずに楷書で正確に書ける、一度やった問題は問題を見た瞬間に条件反射で正解が出せるまでになっている、この3つのことがよくできない限り、よい成績を取ることも、合格することも余りないと言えます。

(4)この簡単な勉強の方法が身についているかいないかで、学校の成績の良し悪しや入学試験の合否が決まってしまうことが非常に多いのです。社会に出てからもこの勉強の方法は役に立ちます。そこで、開倫塾で学ぶ6000名以上の塾生の皆さんと、12000名以上の保護者の皆様に、このことをお伝えしたくて、「理解」したことを「練習、練習、また練習」で完全に「定着」させることの大切さを毎日のように訴えているのです。

(5)受験生の皆さんはぜひ、今日からでも、一度やった問題をもう一度やり直すという勉強方法を取って下さい。もし、今までこの方法で勉強をしていなかったとしたら、この方法を取ることで、これからでも偏差値は何ポイントか必ず上昇します。新しい問題に取り組み、できたできなかったで一喜一憂(いきいちゆう)、つまり喜んだり悲しんだりするのではなく、間違えた問題を研究した上で、同じ問題を繰り返し行う勉強方法、問題自体を身につけてしまう勉強方法を、ぜひ取って頂きたいと希望します。

Q：受験生の皆さんにお伝えしたいことは他にありますか。

A：まだまだたくさんあります。

「受験校の選択について」

合格ラインまでとても届かない学校の受験は、お金と時間の無駄ですから避けるべきです。「記念受験」などという考えは捨てるべきと考えます。人生はそれほど甘くなく、努力をした人は報われ、努力をしなかった人は報われない。合格可能性の少しでもある学校を、受験校として選択すべ

きと私は考えます。

Q：大学入試合格者は入学試験合格後、4月の入学式まではどのように過ごせばよいのか。

A：(1)ほとんどの大学では、1年、2年次に英語以外の第2外国語(中国語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語など)が必修となっており、週に2～3回授業があります。大学は現在、以前のように授業に出席さえすればその科目の単位が取れるのではなく、「厳格な評価」つまり一定のレベルまで達しないと、その科目の単位が取れない傾向になりつつあります。特に、第2外国語は、英語と同じように基礎的なところからスタートはしますが、授業のスピードはとても速く、2年目には、英語で言えば高校3年生の教科書に出てくるような文章を読むような授業が多く見られます。きちんと勉強すれば、1～2年で英検2級合格レベルまで力がつくのが大学の第2外国語教育です。大学3年生からは論文も読めるようになります。

(2)ですから、合格が決定したら、1日も早く大学で選択する第2外国語の勉強をスタートすることをお勧めします。少し大きめの本屋さんに行き、「やさしい 語」「 語入門」などと名のついた本の中から、音声教材つまりCD付きの余り厚くない説明のていねいな教材を一冊購入。入学式まで一心不乱に、書いてある内容を「うんなるほど」と「理解」、「理解」できた内容から「音読練習」「書き取り練習」「問題練習」を徹底的に行い、隅から隅まで覚えきって下さい。授業が始まったら歯を食いしばって授業についていくこと。大学の授業で「理解」した内容について、「音読練習」「書き取り練習」「問題練習」で「定着」をはかること。

(3)このような準備を入学式前に済ませ真剣な態度で授業に臨めば、第2外国語が原因で留年したり、退学になることは激減します。超スピードで授業が進む第2外国語に十分な準備をして対処することが、入学試験合格発表から入学式までの過ごし方で最も重要と私は考えます。遊んでいる暇などありません。

(4)第2外国語は必修科目になっている大学が多く、そのような大学では単位が取れないと進級や卒業できません。真剣に勉強して下さいね。

Q：大学には合格したけれど、高校で十分身に付いていない科目はどうしたらよいのですか。

A：(1)50%以上の高校生が進学するようになった現在の大学の最大の問題は、「大学生の学力不足問題」です。何十年か前ならとうてい大学には入学できなかったような低学力の高校生が、「大学の大量化」(大学定員の増加、少子化による大学入学希望人数の減少、経済成長による一人当たりのGDPの上昇)のために、大量に大学に入学するようになりました。

私は、このこと自体は、一人ひとりの国民が人生において多様な選択肢を得られるという観点から素晴らしいことだと考えます。ただし、大学の教育や研究に耐えられるだけの学力が身につけていないことは、本人のためにも非常に問題であると考えます。

(2)大学合格が決まった方は、入学式の日までに、高校で十分に勉強してこなかった科目の教科書をもう一度ていねいに勉強し直すことをお勧めします。

英語・数学・国語・理科・社会の5科目の中で、この科目を十分に勉強していなければ大学での勉強(授業や研究)についていけない、耐えられないと思われる科目があったら、入学式までにせめて高校の教科書や参考書で勉強することが求められます。

(3)例えば、医学部に入学が決まったのに、生物をよくやっていないと話になりません。法学部や経済学部などに入学したのに、倫理社会や政治経済を終えていなければ話になりません。

理学部や工学部に入学したのに、微分や積分が終えていなければ話になりません。地球環境を勉強するのに、「地学」を学んでいなければ大学生とは言えません。

(4)現代の高校教育は、「手抜き」の極致で、大学などの高等教育機関に進学することがわかっていながら必要な科目を履修させない状況にあります。しかし、高校教育を嘆いていても、大学での教育や研究に耐えられる学力は身につけませんので、合格が決まった方は自分で勉強する以外にありません。

もしわからないところがあれば、高校の先生や開倫塾の先生に、恥ずかしがらずに、遠慮することなく、どんどん質問して下さい。勉強の不足している科目をできるだけ少なくして、大学の入学式の日を迎えること。

入学式までに不足している科目の勉強が終了しなかったら、この科目は夏休みまでとか、この科目は1年次が終わるまでとか目標を決めて、せめて2年次に進級するまでには高校で学習する科目の勉強を終えるよう、自分で努力して下さい。学校によっては、大衆化した大学教育の現状をふまえ、アメリカのように「リメディアル教育(補習教育)」として不足している高校までの教育を補ってくれるところもありますが、日本ではまだまだ不十分です。